

## 平成28年度「大学教員の企業現場研修」の開催結果

### 平成28年度 第1回 「日本電気株式会社」

1. 研修テーマ : **社会価値創造企業における人材育成・人財確保を現場で学ぶ**
2. 研修目的 : 本研修では、社会に貢献し、新たな価値を社会とともに創造していくNECの先端技術開発や、その技術を用いて製品やサービスを提供している事例を紹介するとともに、企業の現場で求められる人材育成の考え方や社員教育制度について紹介します。また、若手社員との交流を通じて大学教育に求められる学びについて考えるきっかけづくりとします。
3. 研修企業 : 日本電気株式会社
4. 開催日時 : 平成29年2月9日(木) 13:00～17:30
5. 開催場所 : NEC本社ビル 〒108-8001 東京都港区芝5-7-1
6. 参加者数 : 24名
7. 参加費 : 無料

#### プログラム

##### 13:00 **事業の概要紹介**

生体認証によるセキュリティ対策やAI技術によるビッグデータ活用など、最先端技術を活用した様々なソリューションを提供し、人がより豊かに生きるための社会価値創造を目指し、「安全・安心・効率・公平」な社会の実現のための社会インフラで未来をささえる事業概要を紹介します。

##### **NECにおける共創活動**

不透明でより複雑化する社会課題を紐解き、安全・安心・効率・公平な社会の実現に貢献する社会価値を生み出していくには、顧客などのステークホルダと課題から共に考え、一緒に解決策を見出していく共創活動が最も必要になります。NECが全社で取組んでいる対話しながら課題に取り組む「共創型ワークショップ」で社会価値を生み出す共創活動の取組について紹介します。

##### 14:15 **ICTを活用した働き方改革**

NECでは、生産性の向上や従業員の多様なニーズに応じた働き方の観点から在宅勤務制度や裁量労働制度等、他社に先んじて新しい制度を導入してきました。また、男女問わず育児や介護を行いながら、キャリアを継続できる仕組みや制度の導入を進めています。多様なワークスタイルを実現する各種人事制度の紹介とともに、ICTを活用した効率的な働き方について紹介します。

##### **社員教育制度の紹介**

セルフディベロップメント(自らの意思で自らの能力開発をはかるという考え方)を基本に、事業に貢献する人材づくりを目指し、「事業遂行力の強化」「プロフェッショナル人材の育成」「マネジメント人材の育成」を人材開発の3つの柱として、社会にイノベーションをもたらす、常に成長し続ける人材を育成するNECの社員教育制度や、NECグループが常に意識し大切にしている「人財哲学」について紹介し、意見交換を行います。

##### 15:45 **若手社員との意見交換 (大学での学びについて)**

社会人になってからこれまでの経験を通じて、大学時代にやっておけば良かったと思うことや大学時代に役立った経験・授業はどの様なことだったのか等について若手社員から発表し、意見交換を行います。

##### 17:30 **終了**

#### 8. 実施結果

受講者の評価は高く、研修終了後のアンケートでは、本研修を「他の教員にも紹介したい」が83%、「授業に役立つ」が91%であった。

##### [ 特徴的な意見 ]

- ① 若手社員との意見交換で、教養教育が社会人になって役立っているとの話があり、専門教育だけでなく、教養教育をしっかり行う必要性を改めて実感した。
- ② PBL型授業やグループワークで経験したことが社会で役立っているとの紹介があり、今後の授業の中で強化して取組んで行きたいと思った。
- ③ 社員が自らの能力開発を図る取組み(セルフデベロップメント)を体験したが、このようなリフレーミング手法とグループワークの方法は応用可能であり、今後の授業に活用できると思った。
- ④ 大学教員には企業の現場情報を知る機会が少ないので、このような機会は大変ありがたく今後も継続して企画して欲しい。
- ⑤ 新入社員を先輩社員が指導員として指導する人事制度の説明を受ける中で、構想やアイデアに結びつけられるように課題や問題設定して行く共創教育の仕組みが理解できた。大学でもこのような教育が重要であり、教員に

ファシリテータとしての資質が必要になることを感じた。

9. 研修会場の様子 (研修・若手社員との意見交換風景)



平成 28 年度 第 2 回 「株式会社内田洋行」

1. 研修テーマ : 情報の価値化と知の協創を目指す人材育成
2. 研修目的 : 人口減少などの構造変化を背景に、地方活性化、ダイバーシティの推進、グローバル化など、日本は大きな転換期を迎えており、「生産性向上」や“21 世紀型能力開発”に向けて「働き方の変革」「学び方の変革」が求められています。本研修では ICT を活用し具体的な場づくりを実践している「UCHIDA ライブオフィス」と「フューチャークラスルーム®」を見学・体験します。また、企業の求める人材像や人材育成プランの共有、教育コンテンツやデータ活用などの取り組みの紹介や ICT 構築に関わる管理職と若手社員との交流の中で、大学教育に必要な具体的な事柄について意見交換を行い、課題を整理します。
3. 研修企業 : 株式会社内田洋行
4. 開催日時 : 平成 29 年 2 月 21 日 (火) 10:30 ~17:00
5. 開催場所 : ユビキタス協創広場 CANVAS 東京都中央区新川 2-4-7
6. 参加者数 : 23 名
7. 参加費 : 無料

プログラム

- 10 : 30 会社概要と事業領域の紹介  
株式会社内田洋行の会社概要・事業等について紹介します。
- 10 : 50 UCHIDA ライブオフィス見学  
働き方と働く場の革新『Change Working』を実践し、高い生産性と躍動的なワークスタイル、省エネルギーの両立に挑戦しているライブオフィスや時代の要請に応じて柔軟に変化できる ICT 活用空間などを見学します。また、大学のアクティブ・ラーニングスペースの豊富な事例を紹介するとともに、新たにリニューアルしたフューチャークラスルーム®を見学・体験します。
- 13 : 00 採用基準と社員教育プログラム等の紹介  
採用基準と社員教育プログラムを通じて、「情報の価値化と知の協創をデザインする企業」を目指して取り組んでいる内田洋行の人材育成の考え方や仕組みを紹介し、意見交換を行います。
- 14 : 10 学校向けコンテンツ配信サービス「EduMall」の現在とこれから  
デジタル教科書を含む、複数メーカーの教育用コンテンツを配信する業界唯一の教育用サービス「EduMall」と、今後の教育現場で求められる学習記録データ等の活用について紹介し、意見交換を行います。
- 15 : 20 システムエンジニア・営業業務の紹介と若手社員との意見交換  
一般企業や文教市場を担当するシステムエンジニア及び営業若手社員から業務内容、必要なスキル、ICT 企業の最新の課題や実態を発表します。また、管理職から求める人材像、キャリアアップについての考え方などを紹介し、その後若手社員との意見交換を行います。
- 17 : 00 終了

8. 実施結果

受講者の評価は高く、研修終了後のアンケートでは、本研修を「他の教員にも紹介したい」が 95%、「授業に役立つ」も 95%であった。

【特徴的な意見】

- ① 若手社員との意見交換の中で、社会では待ちの姿勢では通用しないことが紹介され、学生が主体的に問題意識を持って解決に取り組めるよう教育していく必要性を再確認した。

- ② 教員に一番求められているのは、学生に最良の学びをどのように提供・教育するかであり、それが情報の価値化、知の協創を目指す人材育成につながる事が確認できた。
- ③ 最新の学校教育の事例から、小中学校ではデジタル化が想像以上に進んでおり、大学現場が遅れていることを強く感じた。高大連携ではなく小中高大連携が必要ではないか。
- ④ 企業では、組織目標に全部門が体系的に取り組んでいるが、大学では組織が一体となった取組みが少ないことを感じ、大学も教育目標に全学で体系的に取り組む必要を強く感じた。

9. 研修会場の様子 (研修・若手社員との意見交換風景)



平成 28 年度 第 3 回 「株式会社日立製作所」

- 1. 研修テーマ : 社会イノベーションにおける最先端 ICT 活用事例の現場研修
- 2. 研修目的 : 社会が大きく変化する中で、ICT がイノベーションの核となり、新しい成長分野の創造に不可欠な存在となっています。本研修では、まず日立の ICT 技術が支える社会イノベーション事業を紹介し、その上で日立の求める人材像と採用戦略を紹介します。また、若手社員を交えて意見交換する中で、大学教育に求められる取組み等について意見交換します。
- 3. 研修企業 : 株式会社日立製作所
- 4. 開催日時 : 平成 29 年 3 月 9 日 (木) 13:30 ~17:00
- 5. 開催場所 : 日立コラボレーションスクエア京橋  
東京都中央区京橋三丁目 1 番 1 号 東京スクエアゲーン 6 階 環境ステーション内
- 6. 参加者数 : 21 名
- 7. 参加費 : 無料

プログラム

- 13 : 30 ビジネス領域・事業戦略、求める人材像の紹介  
事業フィールド・事業戦略等について紹介するとともに、求める人材像や採用戦略に関わる取り組み等を紹介します。
- 14 : 10 最先端 ICT 活用事例の紹介 (ショールーム見学と講演)  
日立グループが推進する社会イノベーション事業を支える ICT を利活用した先進的な各種のソリューションをショールームの見学も含めて紹介します。
  - ① 社会インフラ全般  
成熟都市の課題として、「グローバル化、高齢化、安全・安心の確保、都市の老朽化」などが挙げられますが、これらの課題に対して、江戸時代の知恵と文化をヒントに、先進技術とオープンイノベーションで「人を中心とした、人に優しい街づくり」をとテーマにした日立グループの取組みを紹介します。
  - ② 次世代ビジネス IoT  
日立の IoT に対する取り組みについて、鉄道沿線のデータをリアルタイムに収集、分析することで、保守コストを大幅に削減したマート保守の事例、需要変動に即応したグローバルサプライチェーンを実現したスマートファクトリー等の事例を紹介します。
  - ③ スマートモビリティ  
日立の鉄道インフラ事業に対する取り組みについて、英国の都市間新高速鉄道に採用された事例を基に「信頼性」、「安全性」、「環境性」や「IC カード」、「運行管理」等のモビリティテクノロジーを紹介します。
- 16 : 00 若手社員との大学教育に対する意見交換 (大学での学びについて)  
若手社員からイノベーションに関与できる就業力を獲得するための社員教育、キャリア形成などについて紹介し、その上で大学教育に求められる取り組みについて意見交換を行います。
- 17 : 00 終了

## 8. 実施結果

受講者の評価は高く、研修終了後のアンケートでは、本研修を「他の教員にも紹介したい」が94%、「授業に役立つ」が89%であった。

[特徴的な意見]

- ① 企業や社会で求められている人材のイメージがより鮮明になった。学生に自ら考える力を身に付けさせることをより重視し、今後の教育に反映していきたい。
- ② ビジネス感覚を持ったSEが望まれているとの説明があり、基礎教育の徹底と、実践的で総合的な学修に繋げる教育の仕組みを構築することが重要であると感じた。
- ③ 大学や大学教員の意識や知見は、企業や現実社会とかけはなれていることを認識した。教員だけでなく大学職員もこのような研修に参加してもらいたい。
- ④ 若手社員の指摘された大学での授業の評価や要望は生の声であり、現在の授業方法の見直しに繋がられそうだ。
- ⑤ 人財を教育する立場の大学の責任は大変重く、ニーズに向けた教育のあり方について勉強になった。企業現場研修は非常に有益な事業と思うので今後も是非続けて欲しい。

## 9. 研修会場の様子

(研修・若手社員との意見交換風景)



### 平成28年度 第4回 「富士通株式会社」

1. 研修テーマ：ヒューマンセントリックな未来社会実現に向けた先端ICT活用事例
2. 研修目的：ヒューマンセントリックで幸福な未来社会実現に向けて、富士通株式会社が取組んでいるイノベーションの核となる最先端ICTの具体的な事例を施設見学も含めて紹介します。また、ICT業界で高い専門性を持って活躍するための人材育成、社員教育制度の紹介、若手社員との交流を通じて、企業の求める人材と大学に求められる教育について意見交換を行います。
3. 研修企業：富士通株式会社
4. 開催日時：平成29年3月10日(金) 10:00～17:00
5. 開催場所：デジタル・トランスフォーメーション・センター(世界貿易センタービル30階)  
東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル
6. 参加者数：21名
7. 参加費：無料

#### 10:00 富士通における人材育成への取り組み

人材育成体系の紹介と、大学で身につけて欲しい基礎知識、能力等について紹介し、意見交換を行います。

#### 11:10 ICT先進活用事例の紹介と意見交換(1)

ビッグデータ、IoT、センシング、AIなどの最先端技術を活用したイノベーションの事例と、ICTによって実現されるヒューマンセントリックな未来像を紹介し、意見交換を行います。

##### (1) 東京オリンピック、パラリンピック 体操競技×ICTの取り組み

2020年の開催を見据えて体操競技の自動採点システムに世界に先駆け取り組んでいる富士通の最新の取り組みと今後の展望を紹介し、意見交換を行います。

#### 13:00 ICT先進活用事例の紹介と意見交換(2)

##### (2) ICT技術で支える高度医療と超高齢社会の未来を描く

超高齢社会の到来に備え、国民の健康寿命延伸をめざして遺伝子情報を活用した予防・先制医療やPrecision Medicineの実現から、日常生活習慣と連携した健康づくりまで幅広い富士通のICT活用事例を紹介し、意見交換を行います。

##### (3) IoTによるイノベーションと活用事例



今、最も注目されている IoT によるイノベーションがどのように生まれ、活用され始めているのかについて最新の事例等を紹介し、意見交換を行います。

15:10 **富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター最先端展示内容の紹介**

デジタル革新に向けた共創ワークショップ空間「FUJITSU Digital Transformation Center」の最新 ICT、ファシリティを備えた業種横断でグループワークを行うワークショップ「Studio」にて、ワークショップの効果や事例、最新技術ソリューションを紹介します。

16:00 **若手社員との意見交換（大学での学びについて）**

入社2~3年の若手社員から、社会人になってからの経験を通じて、大学時代に役立った経験や授業はどのようなことだったか、大学に対して望みたいことなどについて発表し、意見交換を行います。

17:00 **終了**

## 8. 実施結果

受講者の評価は高く、研修終了後のアンケートでは、本研修を「他の教員にも紹介したい」が84%、「授業に役立つ」が89%であった。

〔特徴的な意見〕

- ① 若手社員の生の意見が聞けるこのような機会は他にあまりないと思う。非常に有益な事業と思うので、今後も是非続けて欲しい。
- ② 企業の現実的な取組みは参考になる。企業の現場情報は、活きた事例として授業にも活用できるとともに現実の社会を理解するヒントになった。
- ③ PBLは多くの時間を取られ大変だが、若手社員との意見交流において役に立っていることが確認でき、今後も実施して行く必要性を強く感じた。
- ④ デザインシンキングを取り入れた授業を計画しているが、今回の研修で得られたことは大変参考になり、実社会とのつながりが具体的にイメージできた。

## 9. 研修会場の様子

(研修・若手社員との意見交換風景)

